

## 能楽師大西家近代蔵書年代別解題目録

関屋 俊彦

はじめに

本目録は能楽師大西智久氏の御厚意により元は大阪能楽会館に所蔵されていた能楽関係を中心とした近代に入ってから年代別解題目録である。筆者は先に「能楽師大西家蔵近世以前写本版本目録」〔関西大学東西学術研究所70周年記念論文集〕二〇二二年三月・関西大学東西学術研究所）を著しているので、解題を補うものとして、そちらをも御参照願いたい。今回あえて年代順にしたのは明治以降のものは戦争を挟む時代を引き継ぐもので、却って情報量も多く整理するには都合がよいと踏んだ為でもあったが、全て思い通りになった訳ではない。又、調査を進めて行くうちに、大西家五世閑雪（天保十一年「一八四〇」〜大正五年「一九一六」）が活躍した時代は、大阪で唯一発行された能楽専門雑誌『國諷』の編集者泉泰知の活動ぶりを照らし合わせてもまさに「大大阪」と呼ばれる時代と重なるものであることも判明しつつあるとわか

ってきた。寸法の取り損ないもあって省略をせざるを得なくなつたが、いずれは再調査の上、最終的には出来れば一冊の活字本を作成するのが私の大西家への責務であると感じている。

### 【凡例】

- 以下、前回の近世以前目録と変えたところは次の通りである。
- 一、資料一点ずつに\*印を付け、種別を問わず年号が明記されている明治二年から昭和三十三年までのものについて成立年代月日順に置いてみた。近代に入ると出版社も確定し年代が判明するものが多いからでもある。
  - 一、メモ程度の写し一枚ものは年月日を特定出来ないもので、とりあえず五十音順の曲名（複数の曲を記しているものは最初に記されている曲）に並べ替えてみた。（翁）は別格なので最初に置いた。なるべく同類のものはまとめた。
  - 一、『平家物語』等、直接能楽にかかわらないものも網羅した。

一、参考にしたのは主として前回同様、表章著『鴻山文庫本の研究―謡本の部―』・『早稲田大学演劇博物館所蔵特別資料目録』・『鴻山文庫蔵能楽資料解題』に加え『観世文庫所蔵能楽資料解題』（令和三年一月・檜書店）・大谷節子編『謡の家の軌跡』（二〇二二年三月・和泉書院）である。（曲名）・表紙・奥書・特記事項としての「備考」の順である。

一、曲名等は小林責ほか編『能楽大事典』（二〇一二年・筑摩書房）を参照した。

一、旧字体・異体字は一部を除いて通行の字体に改めた。

一、書名の（ ）は仮称である。曲名は〈 〉で示した。

一、内容の変わるごとに・を付した。行替えは／で記した。

一、重要と思われる考察は「備考」として記した。その際、適宜

読点（、）を施し統一した。

### 【年代別蔵書解題目録】

明治二年（一八六九）

\*『門人帳』仮大和綴一冊・「備考」天保十四年の橋岡泰次郎から明治二年の吉見良吉ほかまで。

明治五年（一八七二）

\*『諸書留』仮袋綴一冊・内容・明治五年八月十四日能組・漢語・和歌・鷺源右衛門定徴の書写・演者短評・古今著聞集・住所録・明治五年主上巡行・壬申能組・見台等多種。

挟紙一枚・和歌二首。

\*『十二月帖』転写本一冊・内題「窮理捷徑十二月帖 内田晋齋著并書」・外題「十二月帖 上下」・奥書「明治五壬申年孟冬 借本書於山本氏忽々写／虚齋大西寸松」。序「明治五年壬申三月／福沢諭吉誌」。「備考」序文を記した福沢諭吉は慶応義塾の創始者として知られる。福沢の友人内田氏の著した往来物すなわち習字手本『十二月帖』への序文共に寸松が山本某に借りて転写したもの。慶應義塾大学図書館に内田晋齋書（福沢諭吉序）『窮理捷徑十二月帖』全二冊、出版事項：「大阪」萬蘊堂・「東京」玉養堂、出版年一八七二、七、形態二冊。

明治六年（一八七三）

\*『武文・馬融』茶覆表紙・奥書「明治六丑二月中旬御本写也」。

\*『住吉詣・貴布祢』茶覆表紙・奥書「明治六丑二月下旬御本写也」。

明治七年（一八七四）

\*『大坂新（学摘）抄』二種・写本一冊・「備考」「教法管見説」に「明治七年三月十二日」の記述。「我大坂人豊公ノ事業ヲ口ニセサルナシ」に「右ハ横浜高島氏ノ興行ニナラヘト也」。

明治十一年（一八七七）

\*『明治十一年安井多嘉助皆伝目録写し』・仮覆表紙・奥書（墨書）「右之一書ハ明治十一寅年七月、西京住安井多嘉助老、於東京皆伝格免許節、書留持かへられしを同明治十三年辰八月書写する

もの也」・朱書「予前年、西京井上嘉助君ヨリ伝授目録借用し写し置ぬると、今、此書ト較ふるに」云々の記述あり。「備考」前半は小書集成。年代が記されている箇所は「一番習之部 卒都婆小町」に「六月廿二日 観世家舞台ニテ素謡 安井」、「五月十九日芝飯倉三丁目、於金剛宅、高安彦太郎追善」として「望月」白頭・古式 観世清孝」と記す。

\*『勸進帳／起請文』・茶地鳳凰草花模様。「備考」明治十一年古稀の大西家四代寸松虚雪が葛野家四世政賀か五世知定の弟子北脇平右衛門の所持していたものを辻良啓に頼んで書写してもらったもの。

明治十二年（一八七九）

\*『謳外題揃』版本一冊・薄茶覆表紙・奥書「明治十二歳／乙卯春 発兌／檜常之助（黒角印「檜」）／堀井呉三郎」。「備考」表紙に「大西信久」と署名。『鴻山文庫蔵能楽資料解題』下五八一・一三二と同じ。

明治十三年（一八八〇）

\*『三老女伝授 壽』仮綴列帖装写本一冊。内題「関寺小町」等。外題「仮表紙打付書」明治十三年庚辰二月廿一日／寿／大西大先生様／富田正教翁写。「備考」内容は「関寺小町秘伝五ヶノ大事ト云／松垣／姨捨」。

明治十六年（一八八三）

\*『新楽』・前文「蓑田高木半著述／虚雪大西寸松声譜／拙斎大西

鑑一校正／津田蔵書」。「備考」『鴻山文庫本の研究 謡本の部』にある明治十六年四月刊の『新楽』二番二冊を一冊にまとめたもの。校訂者に生一佐兵衛・中村弥三郎・野口貞次・生駒秀三郎・谷市之進・本木源八郎・岡田泰造・恒岡徳・橋岡忠三郎の名を列挙。そのあとに「此新楽ハ勸懲ヲ旨トシ、詠歌舞踏其性情血脉ヲ養ヒ、祭祀ニ奏シ、宴享ニ謡ヒ、移風易俗ノ世、教ニ補ヒアラン事欲スト云尔」とあるのは本来別紙であった。更に「津田」の角印が施されていた。

明治十七年（一八八四）

\*『道成寺素謡之心得』一枚・奥書「右ハ依御執心ニ相認せし候／努々他見他言在之間敷／急々如傳合／明治十七年四月日 大西鑑一郎／源信胃（朱角印）」。「備考」大西鑑一郎は大西家五代閑雪のこと。源姓を名乗っていたことが知られる。

\*『新楽／卷之五 槻乃鞠／卷之六 桃山』。「備考」『鴻山文庫本の研究 謡本の部』にある明治十六年四月刊の『新楽』二番二冊を一冊にまとめたもの。表紙裏に「西山杉村社中／明治拾有七歳覽緒写ス 国峯」と読める。また、裏表紙裏に「桃山 新楽卷之六 角印二」と読める。

明治十八年（一八八五）

\*『新楽』・青地胡蝶鳳凰浮模様表紙。前文「蓑田高木半著述／虚雪大西寸松声譜／拙斎大西鑑一校正」。奥書「明治十八年四月出版／著述人 大阪府平民 高木半（朱角印）／出版人 山岸

弥平（朱角印）。「備考」『鴻山文庫本の研究 謡本の部』にある明治十六年四月刊の『新楽』二番二冊を一冊にまとめたもの。明治二十年（一八八七）

\*『家母智佐子古稀賀祝物覚』写本一冊・標題・墨書「明治二十歳／家母智佐子古稀賀／祝物覚」・「備考」小西新右衛門・鹿田清七などの名前が見られる。

明治二十二年（一八八九）

\*『岩井家法名写』写本・「備考」元祖を岩井七郎右衛門（寛永二年没）に置き、代々「七郎右衛門」を名乗っていた。芸道上の初代は吉勝（元禄七年七十一歳没）。以下、二代信久（享保十四年六十歳没）・三代信尹（宝暦六年六十六歳没）・四代直恒（享和二年七十五歳没）・五代信精（文政十三年七八歳没）・六代直忠（文政八年三十歳没）・七代信発（文久二年四十六歳没）・八代孝道居士（明治二十二年二十五歳没）とする。「備考」大西信久『初舞台七十年』（昭和五十四年・大西松風社）によれば、四世新右衛門寸松は岩井家七世信発が「文久二年、四十六歳で没しました。後継の実子なく、又養子の手だてのなのままに、明治元年まで岩井家は無住となり、寸松が名代の責任を負っておりました。後年閑雪が八代孝道の訓育に岩井家に入ったのも以上の様な因縁によるものです」と述べている。実際、本文書には元祖を岩井七郎右衛門（寛永二年没）に置き、代々「七郎右衛門」を名乗り、芸道上の初代は吉勝（元禄七年七十一歳没）

とし、七代信発（文久二年四十六歳没）に嫡子なく、加藤量平の次男を養子にしていたが早世した由記されている。しかるに野々村戒三「京観世五軒家の内岩井家の後裔」（『観世』昭和四三年一〇月号）には加藤弘氏からの手紙を紹介し、それには岩井家最後の祖母の養子として入ったが、新憲法で旧戸籍が廢籍となったこともあって加藤姓を名乗っているとの内容であったようである。その方が京都市芸大の名誉教授の岩井弘氏であった。大西家の蔵書には、もともと家に伝わっていた伝書以外に元は岩井家の蔵書だったと思われるものが入っていることがわかかってきた。『謡を楽しむ文化——京都の謡の風景』（二〇一六年・京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 研究報告一）によれば末裔の岩井（旧姓加藤）弘氏が京都市立芸術大学名誉教授という縁もあり、能楽関係六十二点を含めた七十四点の資料が二〇一二年に同大学に寄贈された。恵阪悟氏が「岩井家旧蔵資料目録」を作成してくれている。一方で大谷節子氏が「岩井弘蔵岩井七郎衛門家資料をめぐって」（六龍会二〇一一年六月報告）の「岩井家所蔵目録」仮綴一冊を紹介し書名を列挙している。更に岡田三津子氏は「岩井家所蔵目録」をめぐる文化的状況の中で『目録』の一部を紹介され、「この覚書を記した大西寸松は、岩井家の筆頭弟子であり、（岩井）新発の没後にその名代を勤めた人物である。そのような経緯から、寸松は岩井家所蔵資料の点検を行ったのであろう」とされる。

\*『明治廿一・二年（大西閑雪）日記』・覆厚紙表紙・備考・明治

二十一年九月一日（旧七月二十五日）より同二十二年四月三日

までの日記。無記名だが大西閑雪の自筆。たとえば、明治二十

一年十月七日に「高村氏還暦ノ賀能、拙者安宅延年舞勤ム、朝  
ヨリ家ニテ同山ケイコ、高木君、谷口君。松井君、吉川君、午  
時ニ出勤ス、道成寺ノ次第ノ処也」とあるのは倉田喜弘編『明  
治の能楽』に記載される「朝日新聞」十月五日の予告記事「来  
る七日、中之島翠柳館にて能楽の催あり、其番組は」とある「安  
宅（大西鑑一郎）」「道成寺（高村太左衛門）」に合致する。ま  
た、同二十二年二月十日の「能催、無滞済」とあるのは前々日

九日の「夕方、片山宅ニテ板敷山被為候」とあるのは「日出新  
聞」同年同月三日（『明治の能楽』）に「来る十日、京都片山観  
世舎に於て大坂の大西鑑一郎が座主となり能楽を催す」とある  
〈板敷山〉（上人 大西鑑一郎、弁慶 広鴻二郎）に一致するも  
のである。大西鑑一郎すなわち閑雪はこのころ四十八、九歳と  
いうことになる。

明治二十四年（一八九二）

\*『観世流太鼓頭組』袋綴写本一冊・内題…「目録」曲名列挙（高  
砂（狸々）九十九曲・白地金箔散し「観世流太鼓頭組」・黒地重  
ね草花模様布覆表紙・旋風様綴。中奥書「観世流太鼓頭組  
佐々木伝」。奥書「此書ハ左吉流本木源八郎／友雪ノ／手附ヲ辻  
宗次模写セラレシヲ／故アリテ譲受タル也／明治廿四年冬／大

西信胄（朱角印）。

明治二十六年（一八九三）

\*『恋重荷／砧／鷺／望月』・千鳥模様打抜き薄茶覆表紙・奥書  
「明治廿六年二月同日訂正出版／故人 観世織部／訂正著作者  
観世清廉／発行者兼印刷者 檜常之助（朱丸印）・朱角印「宗家  
観世之印」・朱角印「松風社大西住所印」。

\*『淡路／放下僧／吉野静／籠太鼓／錦戸』・観世千鳥打出し黄土  
色表紙・奥書「明治廿六年二月同日訂正出版／故人観世織部／  
（住所）宮内省御用達／訂正著作者観世清廉／（住所）発行者／  
檜常之助」。

\*『嵐山／項羽』・茶地金草花模様布表紙・奥書「明治廿六年二月  
同日訂正出版／故人観世織部／訂正著作者 観世清廉／発行者  
兼印刷者 檜常之助／朱角印「宗家観世之印」。

\*『胡蝶／松虫』・表紙裏表紙剥離。裏表紙二／三剥離。紺地一部  
残存・奥書「明治廿六年二月同日訂正出版／故人観世織部／訂  
正著作者 観世清廉／発行者兼印刷者 檜常之助／朱丸印／  
「宗家観世之印」。朱丸印「南月」。

\*『水無月被・歌占』・表紙剥離・裏表紙一部残存。灰地茶水草花  
模様・奥書「明治廿六年二月同日訂正出版／故人観世織部／訂  
正著作者 観世清廉／発行者兼印刷者 檜常之助／朱角印「宗  
家観世之印」。朱丸印「南月」。

\*『吉野静・籠太鼓』・表紙剥離・裏表紙二／三剥離。灰地茶水草

花模様・奥書「明治廿六／朱丸印／「宗家觀世之印」。朱丸印「南月」。

以下、二番綴は年月日不明だが、上記の「南月」と同名と思われるのでここに置いた。

\*「善知鳥・錦木」・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「鉄輪・半部」・茶地金草花模様布表紙・「備考」剥離。奥に丸朱印「南月」。

\*「舍利・草紙洗」・表紙裏表紙共剥離・「備考」奥遊紙に丸朱印「南月」。

\*「俊成忠度・七騎落」・紺地金蔦草花模様布覆表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。剥離。

\*「関寺小町・東北」・茶覆表紙若干残存・「備考」朱丸印「南月」。

\*「天会・狸々」・朱地金線点布草花金模様表紙・「備考」剥離進む奥に丸朱印「南月」。

\*「大仏供養・和布刈」・黒地銀茶水青草花模様布覆表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「道成寺・葵上」・灰薄水青縦割地・茶金水草花模様布表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「知章・望月」・灰地・紺白茶青草花模様布表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「寢覚・西王母」・茶地金草花模様布表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「鉢木・敦盛」・黒地銀茶水青草花模様布覆表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「松垣・芭蕉」・表紙裏表紙共剥離・「備考」奥遊紙に丸朱印「南月」。

\*「雲雀山・車僧」・紺地金蔦草花模様布覆表紙・「備考」奥遊紙に丸朱印「南月」。剥離。

\*「山姥・船弁慶」・紺地金蔦草花模様布覆表紙・「備考」奥に丸朱印「南月」。

\*「養老」・茶地觀世千鳥浮出し模様覆表紙・奥書「右之本者觀世太夫織部以章句／明治廿六年三月廿九日別製本御届行／訂正者觀世清廉／発行者兼印刷者 檜常之助（朱丸印）」。

\*「謡曲拾葉抄」・布目入茶地覆表紙・奥書「謡本所／旧 山本長兵衛／後伝当今 檜常之助（朱丸印）」「発売所／堀井呉三郎／松本善助」。『備考』「鴻山文庫藏能楽資料解題 中」三四五五の

「明治二十年代 檜常之助」にほぼ同じ。金切箔題箋でなし。橋本常祐の養子が檜常之助。明治二十六年前後の刊行。

\*「觀世氏歴代靈位牌表記」一冊・「備考」「妙智院力譽觀阿宗音大居士 応永十三丙戌年三月十五日」から「觀信院廣譽惠海如雪居士 安政二卯年九月八日」まで二二靈・一基。音阿弥三五〇遠忌に発願施主清興意謹誌／助附 浅野栄足。「明治廿六年七月（住所略）光珠院記」とある。



明治二十七年（一八九四）

\*『当流口伝見分録』袋綴一冊・装丁は『道のしをり 二』に同じ・薄紫覆表紙・「備考」〈楊貴妃〉に宮増弥左衛門と金春禪竹の論争記す。元章の記述あり。〈邯鄲〉頭注に「明治廿七年」とあり。

明治二十八年（一八九五）

\*「部分謡」①〈砧〉上ゲ歌 ②〈弱法師〉サシ ③〈望月〉「猶々廻る」④〈外浜風〉「理りや」⑤〈安宅・安達原・接待〉⑥〈成歎駅〉「明治廿八年五月十四日 勅作」同十二枚 ⑦〈平壤〉・奥書「明治廿八年五月 皇后陛下御作 名ハ未タ治定ナシ平壤トテモ称スヘキカ」⑧〈御国光〉⑨〈成歎駅・平壤〉・奥書「明治廿八年五月廿八日 勅作 成歎／同年五月 皇后陛下御作 平壤」⑩活版〈勧進帳〉

\*『詠草』写本一冊。「備考」点者として、萩原宗匠・中島宗匠・大隈宗匠・家尊君の名が見える。「明治廿八年九月十四日、祇園社より清水寺まうて云々」の記事あり。

明治二十九年（一八九六）

\*『蘭曲十章』・仮綴覆表紙・中奥書「右、此一書ハ師（宗巴居士）より拝借して写之、但し、此書ハ師の執行せられし時、先師（黒雪師）の仰られしを書つらねられし（中略）寛文八戊申三月 吉勝／先師トハ観世左近太夫忠親師 黒雪斎暮閑ト云／師トハ福王茂兵衛盛親師 宗巴ト云／黒雪師ノ甥ナリ／予トハ岩井七郎

右衛門吉勝師 道沢ト云」。奥書「明治廿九年申四月 大西胙斎／五十七歳」。「備考」大西胙斎とは閑雪のこと。中奥書に見られるように観世黒雪から福王盛親さらに岩井吉勝に伝わったものを閑雪が転写したもの。内容は第一章「発句調子心得の事」から第十章「死活の論可思惟事」に至る。

明治三十年（一八九七）

\*『いろは順 小謡集』版本一冊・群千鳥模様磨出し紺表紙・奥書「明治三十年五月七日発行・著作発行印刷 檜常之助（丸朱印）」・『鴻山文庫本の研究 謡本の部』観世流部分謡三四に同じ。奥書の前に跋文と「明治三十年春 大西胙斎」とあるのも同じ。

\*『乱曲集』・目次「初瀬六代／東国下／西国下」「願書／起請文／勧進帳」「笠取り 中之巻／蛙 同／俱利伽羅落 下之巻」・黄土覆表紙・奥書「同（明治三十）年十一月七日発行／翻刻／発行／印刷／檜常之助（朱角印「本家」）」。「備考」本文朱書込み。挟み紙六枚にて修正箇所あり。『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』二〇三五の説明参照。計四冊。三曲（笠取・蛙・俱利伽羅落）の増補以外は貞享本と同内容とある。

明治三十一年（一八九八）

\*『謡曲指南抄』・鞠模様打出し薄茶色覆表紙・奥書「元禄九歳 故人川勝五郎左衛門板／同（明治卅一）年四月十七日発行／翻刻／発行／印刷／檜常之助（朱丸印「本家」）」・『鴻山文庫蔵能楽

資料解題 中」三七一〇八によれば、元禄九年本の版權を取得して書名を改めて復刻したもので、当時の能楽復興の氣運を物語っているものである。

明治三十三年（一九〇〇）

\*『日触語』・茶地浮波模様表紙・奥書「明治卅三年一月五日發行／訂正者 觀世清廉／印刷兼發行者 檜常之助（朱丸印）」。

明治三十四年（一九〇一）

\*「明治三十四年夏・還曆祝賀會謡組・大西松諷社」①三十四年五月十九日／於大阪博物場内／還曆祝賀第一會・②五月廿日・③五月廿五日／大西亮太郎〈祝言・弓八幡〉・④五月廿六日・⑤六月一日・⑥六月九日・⑦六月十日／大西亮太郎〈道成寺〉地謡・大西閑雪〈木曾〉

\*『鹿の瀬』・茶地覆表紙・跋文：「此一曲は彼石積船の沈没せし一週年／なれハ其追祭乃法樂にもと事務處長／西村備處翁か立案して草稿をおのれに／刪補せよとあらへられしよりやう／かくは物せり節はかせハ金剛直喜に／かたらひてさしたる也／明治三十四年十一月 平瀬春愛 非売品」・『備考』『鴻山文庫本の研究 謡本の部』によれば播州明石沖の鹿の瀬で遭難した石積船に取材した新作曲で平瀬春愛は平瀬露香（明治四一年六九歳没）のことで第三三国立銀行の頭取もつとめた。

\*野口勘藏貞元免狀「生田秀宛」五通・いずれも折紙・奉書紙。包紙に「曲名・一調相伝書」と墨書。本文朱入墨書。奥書「右

相伝候也／明治卅四年十一月五日／野口勘藏／貞元（花押）。①〈景清〉②〈雨月〉③〈勸進帳〉④〈定家〉⑤〈砧〉\*包紙裏に「貞元（花押）」・『備考』生田秀が短時日の間に一挙に笛一調五曲の相伝を野口勘藏貞元から受けたことがわかる。野口家は笛方森田流で関西大学図書館に寄贈された『新藏生田文庫蔵書目録并解題』に『笛唱歌』などが散見する。野口勘藏については神戸女子大にも伊藤正義氏寄贈の中にある。秀は囃子ごといつて一通り習っていたのであろう。

明治三十五年（一九〇二）

\*『鹿の瀬』・前文「此一曲は彼石積船の沈没せし一週年追祭の法樂にもと、事務處長西村脈（處）翁の立案せられしを平瀬春愛翁刪補せられ、金剛直喜氏、節をのせ越附られしに喜び、三年追祭法樂の爲め大西亮太郎、觀世閣に節はかせをかへたるものなり／明治三十五年十一月」。考察：『鴻山文庫本の研究 謡本の部』二三A―二参考。

明治三十六年（一九〇三）

\*『仕舞付』写本一冊・奥書「明治參拾六年九月大吉祥日／松諷社源信正（朱角印）」。

明治三十七年（一九〇四）

\*『華之実』活字茶地覆表紙一冊・奥書「明治三十七年三月三〇日・華道家元發行、池坊專正著作」。

\*『鶯』・茶地浮波觀世模様表紙・奥書「明治卅七年五月廿日發



行／訂正者 観世清廉／発行兼印刷者 檜常之助。

明治四十一年（一九〇八）

\*『新能楽』・内題…（新能楽）／千秋楽／叢雲／卯花重／征露の談／鞠の勲・布目入茶覆表紙・序文「新能楽／明治四十季五月／蓑田高木半書」・奥「大西松諷社」の朱角印。「備考」『鴻山文庫本の研究 謡本の部』二三特殊謡本A―一九の明治四十一年四月刊「新能楽」の第一冊に同じ。「甚だ難解な曲」と評す。各曲奥に「高木半著述／本居豊頼閱／観世清孝聲譜」と記す。

\*『観世流謡曲本組合及季寄便覧』活版一枚・奥書「明治四十一年五月三十日発行／著作発行兼印刷者 檜常之助」

\*芳賀矢一『四流対照 謡曲二百番』（明治四十一年・金港堂）

明治四十二年（一九〇九）

\*〔明治四十二年法要控〕「墨付二枚。〔備考〕①冒頭「明治四十二年 年間控」。「天明五巳年二月十五日 釈尼 妙正 おさゑ 百廿五回忌」など。

明治四十五年（一九一二）

\*佐々木信綱『新謡曲百番』（明治四十五年二月十五日・博文館）大正三年（一九一四）

\*『謡話録』・見返し…朱書「元信作」・奥書「明治四十一年一月」大正三年四月 謡話会／非売品（朱角印「謡話会印」）…一番綴①「高砂」②「田村」③「江口」④「斑女／十段ノ音」⑤「鶺鴒／難波」⑥「井筒」⑦「三井寺」⑧「熊野」⑨「井筒」⑩「蘭

曲之十章」⑪「蘭曲十章ノ一」⑫「卒都婆小町」⑬「鸚鵡小

町」⑭「望月」…二番綴①「蟻通／忠度」②「老松／頼政」③

「杜若・二人静」④「通小町／小袖曾我」⑤「鞍馬天狗／定家」

④「源氏供養／花筐」⑤「実盛／楊貴妃」⑥「玉葛／融」⑦「天

鼓／白楽天」⑧「鉢木／羽衣」⑨「松風／西行桜」⑩「夕顔／

角田川」⑪「遊行柳／藤戸」…三番綴①「敦盛／葵上／輪藏」②

「浮舟／呉服／八嶋」③「姨捨／檜垣／関寺小町」④「葛城／当

麻／海人」⑤「兼平／千手／紅葉狩」⑥「桜川／山姥／氷室」

⑦「七騎落／弱法師／玄上」⑧「善界／芭蕉／百萬」⑨「大會／

三輪／安宅」⑩「竹生島／柏崎／阿漕」⑪「東北／蟬丸／狸々」

⑫「養老／清経／采女」…四番綴①「雨月／土車／接待／国栖

②「咸陽／東岸居士／龍田／夜打曾我」③「項羽／橋弁慶／熊

坂／小督」④「正尊／巻絹／花月／鍾馗」⑤「船弁慶／右近／

女郎花／自然居士」⑥「雷電／絵馬／現在七面／昭君」…五番綴①

「淡路／放下僧／吉野静／弄太鼓／錦戸」②「三笑／鳥追舟／

藤／水無月祓／歌占」③「鶴亀／和布刈／大社／東方朔／春采」

④「寢覚／江嶋／代主／九世戸／逆鋒」⑤「放生川／須磨源

氏／胡蝶／松虫／一角仙人」⑥「室君／碓潜／身延／枕慈童／

飛雲」⑦「吉野天人／大仏供養／忠信／烏帽子折／大瓶狸々」

大正四年（一九一五）

\*『大倉流 翁 頭取鼓』小鼓付活字本一冊・白地金箔散らし刷題箋「大倉流／翁 頭取鼓／併脇鼓／全」・黄地覆表紙・奥書…

「大正四年同(九)月同(廿二)日発行／非売品／編輯兼発行人  
荒木賀光(朱角印)・「備考」八割

\*『大典』・灰地鳳凰桐浮出し模様覆表紙・奥書「大正四年十月廿五日発行／著作者 観世元滋／印刷兼発行者 檜常之助」。

\*「大正四年十二月十九日・歳末会」大西松諷社舞台「活字二つ折一枚。標題「大正四年十二月十九日／歳末会／大西松諷社舞台」・「備考」大西信久・袴能(芦刈)・大西閑雪(祝言)

大正五年(一九一六)

\*『乱曲集』①内題：目次「上之巻／玉とり／近江八景／和国／四季／鼓の瀧／香椎／定家一字題／さねもり／高野物狂」・蕙草模様磨出し黒覆表紙・奥書「大正参年壹月貳拾五日従／大正四年貳月拾七日迄発行届済／大正四年八月拾五日再版／大正五年参月貳拾日三版／増補訂正相続者 大喜多信秀(朱丸印)／発行所 常盤会」。「備考」『鴻山文庫本の研究 謡本の部』一四四三 観世流の説明参照。大喜多は大西信久『初舞台七十年』によると閑雪の妻であるの実家が大喜多家であって『鴻山文庫本の研究 謡本の部』に「架空の名」とするのは訂正を要す。②内題：目次「中之巻／内府／経山寺／阿古屋／上宮太子／反魂香／松浦物狂／博多物狂／更科／笠取／蛙」。③『乱曲集 上』・内題：目次「上之巻／玉とり／近江八景／和国／四季／鼓の瀧／香椎／定家一字題／さねもり／高野物狂」・黄緑地蕙草模様磨出し模様表紙。④『乱曲集 中』・目次「内府／経山寺／阿古屋松／

上宮太子／反魂香／松浦物狂／博多物狂／更科／笠取／蛙」・黄緑地蕙草模様磨出し模様表紙。⑤『乱曲集』・目次「上之巻／玉とり 近江八景／和国 四季／鼓の瀧 香椎／定家一字題 さねもり／高野物狂／中之巻 内府 経山寺／阿古屋松 上宮太子／反魂香 松浦物狂／博多物狂 更科／笠取 蛙／下之巻 嶋廻 賀茂物狂／美人揃 妻戸／鳥羽殿 隠岐流／由良湊 佐夜中山／横山 五倫碎／飛鳥川 俱利伽羅落」・黄緑地蕙草模様磨出し模様表紙。⑥『乱曲集 下』・目次「下之巻 嶋廻 賀茂物狂／美人揃 妻戸／鳥羽殿 隠岐流／由良湊 佐夜中山／横山 五倫碎／飛鳥川 俱利伽羅落」・黄緑地蕙草模様磨出し模様表紙。

\*『恋重荷／砧／鷺／望月』・大正五年六月十四日／観世流改訂本刊行会発行。

\*『三輪／安宅／東北／蟬丸／狸々』・青地金巻水浮出し模様表紙・大正五年六月十四日／観世流改訂本刊行会。

\*『閑雪白筆小謡(松竹)』一枚。奥書：「喜寿の祝に書之／丙辰仲春／閑雪」。「備考」大西閑雪喜寿の年は大正五年に該当する。

\*「大西閑雪「喜」」書写一枚・内容「大文字「喜」／一舞まはう／萬歳楽／萬歳らく／万才楽／丙辰初秋／喜寿翁／閑雪書(朱角印)」。備考：閑雪喜寿で丙辰年は大正五年まさに没年の年。

\*「大正五年四月九日・大西閑雪喜寿祝賀謡曲大会・於御影倶楽

部」活字一枚・「備考」謡・大西信正（梅）・大西信久（羽衣）・大西信秀（箴）・大西信弘（鶴亀）

大正六年（一九一七）

\*『俊寛』・茶地青観世水浮出し模様・奥書「大正六年五月廿五日発行／訂正者 廿四世 観世元滋（朱角印）／印刷兼発行者 檜大瓜堂」。『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』に「檜大瓜堂の名を奥書に出した本では本書が文庫本で最も早く」とあるよりは早い年月。

大正八年（一九一九）

\*『狂言畫』伊勢門水折刊本一冊・厚布薄茶地表紙・奥書「大正八年六月一日発行・筆写 伊勢門水・発行者 水野関三・発行所 川瀬書店」内容…静岳書「清楽（朱角印三）・碧題書（朱角印一）」「翰墨結縁」・大正八年一月 坂元雪鳥（朱印「雪鳥」）序・鏡板松絵（以下、朱角印「関」押）・楽屋お茶一服・楽屋（装束等改め）・楽屋（着付け・面付け）・鏡之間（出）・「三本柱」・柿山ふし・おはかさけ・寝音曲・式人大名・麻生・宗八・二人袴・瓢神・ぬりつけ・不見不聞・猿躰・田植・釣きつね・いくひ（井杭）・二九十八・くさひら山伏・悪太郎・六地藏・首引・米市・小謡「目出たきに」 大正八年巳未初冬 還暦」・補記・伊勢門水（昭和七年七十三歳没）。名古屋和泉流早川幸八弟子・狂言共同社結成一員。序文にある通り坂元雪鳥に激賞されるほど狂言画を得意とする。

大正九年（一九二〇）

\*『神歌』・黄緑地蔦草模様磨出し模様表紙・奥書「大正九年参月拾日五版／増補訂正相続者 大喜多信秀（朱丸印）／発行兼印刷者富永久世（朱丸印）／発行所 常磐会」。

\*黄緑地蔦草模様磨出し模様表紙・奥書「大正九年参月拾日五版／増補訂正相続者 大喜多信秀（朱丸印）／発行兼印刷者富永久世（朱丸印）／発行所 常磐会」。「備考」大正五年『乱曲集』参照。

大正十一年（一九二二）

\*「大西閑雪追善」口演「活版一枚・奥書…大正十一年三月／催主／大西新三郎・大西信久・大西亮太郎」。「備考」「入会申込書」付。

\*「大正十一年五月二日・故大西閑雪翁七回忌追善能組・大阪能楽殿」活版・標題「大正十一年五月二十一日／故大西閑雪翁七回忌／追善能組／大阪能楽殿」。「備考」催主…大西新三郎・大西信久。補助…大西亮太郎、大西信久（輪藏）普建大西信彦・普成大西信辨・大西新三郎（道成寺）・大西信弘（安宅）判官・大西亮太郎（融）。

大正十二年（一九二三）

\*『乱曲集』・蔦草花模様磨出し茶地覆表紙・上は奥書なし。『鴻山文庫本の研究 謡本の部』一〇四四によると貞享四年正月山本長兵衛版が元。中下は茶布地表紙・奥書「大正拾二年一月拾五

日発行／訂正著作 廿四世観世元滋（朱丸印）／発行兼印刷者 檜大瓜堂（朱丸印）。『鴻山文庫蔵能楽資料解題上』二〇三五に近い。

- ①上「玉とり／近江八景／和国／四季／鼓の瀧／香椎／定家一主題／さねもり／高野物狂」
- ②中「内府 経山寺／阿古屋松 上宮太子／反魂香 松浦物狂／博多物狂更科／笠取 蛙」

③下「嶋廻 賀茂物狂／美人揃 妻戸／隠岐院 由良物狂／横山五倫碎／飛鳥川 俱利伽羅落」

\*『三曲』・『三曲／初瀬六代／東国下／西国下』。表紙・奥書・「備考」上記に同じ。

\*『三読物』・内題：目次「三讀物／願書／起請文／勸進帳」。表紙・奥書・「備考」上記に同じ。

\*「大正十二年五月一九日 観世宗家舞台能組」活字二つ折一枚。標題：廿三世清廉十三回忌追善 能組 於観世宗家舞台。「備考」後日（五月二〇日）仕舞〈網之段〉大西信久・俊寛 大西亮太郎。

\*「十一月二五日 能組」墨付一枚。「備考」近世のもの。〈翁〉三番叟 八右衛門・松竹風流 右衛門、〈田村〉観世太夫、〈羽衣〉金春太夫、〈鞍馬天狗〉（喜多）六平太、〈祝言 金札〉石之助。大正十三年（一九二四）

\*『山姥』・卷水千鳥模様浮出し薄茶色表紙。大正十三年一月廿日

第五版檜大瓜堂／江川堂発行。

大正十四年（一九二五）

\*『新編 狂言正本』活字一冊・紺地家紋浮出し模様覆表紙。奥書「大正十四年十二月二十日発行・著作人野村萬斎・発行所わんや書店」。「備考」遊紙に朱角印「狂言正本」。著者は野村万蔵家五世の万造（昭和十三年七十七歳没）で萬斎は隠居名。後編は見当たらない。狂言小謡の稽古本。

大正十五年（一九二六）

一月廿日第八版檜大瓜堂／江川堂発行。①『竹生鳥』②『天鼓』

\*『三山』①黄土表紙。檜常之介。②大西蔵書印

\*『神歌』①白地金砂子散らし覆表紙。奥書「大正十五年一月廿日／檜大瓜堂第八版発行。②奥書「謡本所 檜常之介（朱丸印）」。

\*『道のしをり』袋仮綴一冊・内題なし。冒頭は「神舞ノ真艸二様」。標題は外題「道のしをり 二」による。装幀は『当流口伝見分録』に同じ。薄紫覆表紙。「備考」罫紙枠外に「平三池田製」と印刷。内容：神舞ノ真艸二様ノ高砂ノ御大札ノトキノ別ニ太極ノ伝ト云フアリノ古訓集ノ熊野ノ膝行（大倉ノ家ニ秘事）ノ修羅物ノ縁のはやし（江口）・大倉道知ノ黒雪師ハ予カ生年ノ干支ト同シ、永禄九年京師ニ生レ、寛永三年六拾才テ没シラレタ、則、永禄九年ハ丙寅テ没年寛永三年カ丙寅デアル、当大正十五年ガ丙寅デ、予カ六十一才ナレバ一寸記念ニ認ムル、（以下、黒雪の履歴記す）

\*〔大正十五年筆写本〕「十九世（観世）清興氏（文化十二年五十五歳没）が書置カレタル聞書ト称スル書物ノ内ニ（文化八年ト奥書アリ）／大正十五年／片山家のこと／「予カ家」と履歴記す。新聞貼付あり。「備考」筆者は手塚（大西）亮太郎。観世黒雪と干支が同じで大正十五年に六十一歳と記すのが決め手となる。

昭和二年（一九二七）

\*〔昭和二年七月十六日・素謡別会番組・朝日会館〕活版一枚・「備考」観世会・大西信久（蟬丸）ツレ・大西信久（斑女）。

昭和三年（一九二八）

\*〔昭和三年三月三日・於華族会館能楽堂〕活版一枚。

\*〔般若心経〕写真活字一枚・「備考」奥書「昭和三年歳次戊辰三月中旬 竟山居士繇（宅）薰沐敬書（角印ニ）」と記す。元は掛け軸らし。それを撮影プリントしたものか。

昭和四年（一九二九）

\*『蟬丸』・群千鳥模様薄茶色表紙。昭和四年十月一日第十版／繪書店発行。

\*〔昭和四年〕一〇月二二日・「菊溪俱樂部」写し一枚。標題・「十月二十二日／菊溪俱樂部／故大西閑雪翁十三回忌手向素謡会」。「備考」京都松諷社・大西信久（江口）・大西新三郎（追加）

昭和五年（一九三〇）

\*『当流口伝見分録』袋綴一冊・薄紫覆表紙・「備考」罫紙枠外に

「平三池田製」と印刷・「謡曲新報」三三三三号（昭和五年七月一日）が挟み込まれている。「付」に分類カ。「備考」〔邯鄲〕替の頭注に「明治廿七年」の記述、〔俊寛〕替装束に「昭和四年秋於能楽殿」の記述あり。「考察」筆者は手塚（大西）亮太郎。

\*『大西松楓社 人名簿』・外題「人名簿／昭和五年七月現在／大西松楓社」・横書き・別紙・大正一四年一二月記、大西松楓社幹事から事務全部を社中に委任された由、各位宛通知状。生田耕一・専次郎・金子又兵衛の名前が見られる。

\*〔鈴木忠司〕追善能楽組〕活字一枚。「備考」冒頭「昭和五年十月十七日 故鈴木忠司追善 午前八時半はしめ 於日野能楽堂」。奥書「主催 鈴木忠右衛門」。大西信久（井筒）。

昭和六年（一九三一）

\*群千鳥模様金刷黒表紙・奥書「昭和六年五月十日」発行／訂正著作者 廿四世観世左近／発行兼印刷者 檜常之助／発行所 繪書店・考察・『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』二二五九に同じ。

①『難波／兼平／千手／卒都婆小町／紅葉狩』②基本的には大正版を踏襲。

\*『老松／頼政／井筒／三井寺／天鼓』③『白楽天／実盛／楊貴妃／玉葛／融』④『養老／清経／采女／通小町／小袖曾我』⑤『竹生島／朝長／姥捨／柏崎／阿漕』⑥『蟻通／忠度／熊野／遊行柳／藤戸』⑦『呉服／八島／鸚鵡小町／葛城／当麻』⑧『海士／鞍馬天狗／定家／咸陽宮／東岸居士』⑨『龍田／夜



討曾我／夕顔／隅田川／雲林院」⑩『皇帝／通盛／桧垣／桜川／山姥』⑪『氷室／善界／芭蕉／百万／舟弁慶』⑫『右近／女郎花／関寺小町／自然居士／大会』⑬『白髭／盛久／仏原／善知鳥／小塩』⑭『邯鄲／殺生石／野宮／錦木／唐船』⑮『弓八幡／鉢木／羽衣／道成寺／龍虎』⑯『寢覚／江野島／代主／久世戸／逆鋒』⑰『西王母／道明寺／経政／箆／巴』⑱『嵐山／正尊／巻絹／花月／鍾馗』⑲『項羽／橋弁慶／熊坂／小督／野守』⑳『張良／羅生門／鉄輪／藍染川／雲雀山』㉑『住吉詣／谷行／半部／禪師曾我／車僧』㉒『吉野天人／大仏供養／忠信／烏帽子折／大瓶猩々』㉓『鶴亀／和布刈／大社／東方朔／春榮』㉔『第六天／土蜘蛛／舍利／小鍛冶／石橋』㉕『合浦／生田敦盛／草紙洗／六浦／松山鏡』㉖『金札／大江山／岩船／知章／俊成忠度』

\*『花伝第六花修』（昭和六年・能楽研究会編）  
昭和七年（一九三二）

\*『恋重荷／砧／鷺／望月』・群千鳥模様金刷黒表紙・奥書「昭和七年八月十五日発行／訂正著作者 廿四世観世左近／発行所 檜書店」・「備考」『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』二五九に同じ。

\*『七騎落／弱法師／絃上』・群千鳥模様金刷黒表紙・奥書「昭和七年九月十五日発行／訂正著作者 廿四世観世左近／発行所 檜書店」・考察…『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』二五九に同じ。

\*群千鳥模様金刷黒表紙・奥書「昭和七年十一月十五日発行／訂正著作者 廿四世観世左近／発行所 檜書店」・「備考」『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』二五九に同じ。①『淡路／放下僧／吉野静／籠太鼓／錦戸』②『室君／碇潜／身延／枕慈童／飛雲』③『放生川／須磨源氏／胡蝶／松虫／一角仙人』④『三笑／鳥追舟／藤／水無月払／歌占』⑤『雨月／土車／接待／国栖／雷電』⑥『絵馬／現在七面／昭君／仲光／高野物狂』

\*「昭和七年十一月二十六日／例会ノ九／於観世会能楽堂」活版一枚・「備考」大阪春秋会／素謡別会／大西信久〈蟬丸〉ツレ・〈斑女〉

昭和八年（一九三三）

\*「昭和八年二月十八日／大阪能楽殿／能組」活版一枚。備考…観世会別会・〈草子洗小町〉貫之…大西信久

\*「消印：昭和八年四月三日付 村上鹿之助差出・大西信久宛」。備考…節目伺。

\*『藤橋』・紺地銀観世波模様表紙・奥書「昭和八年十二月十五日発行（非売品）／廿四世 観世左近／発行兼印刷者 檜常之助」昭和九年（一九三四）

①「生一庸〈三輪〉写真」一枚②「大西新三郎訃報」二枚（昭和九年一月）

\*『大典／菊慈童／笛之卷／梅／楠露／木曾』・群千鳥模様金刷黒表紙・奥書「昭和九年四月十五日発行／訂正著作者 廿四世観



世左近／発行所 檜書店」・考察：『鴻山文庫藏能楽資料解題上』二五九に同じ。

\*『三曲／三読物』・群千鳥模様金刷黒表紙・奥書：「昭和九年九月十五日発行／訂正著作者 廿四世観世左近／発行所 檜書店」・考察：『鴻山文庫藏能楽資料解題 上』二五九に同じ。

\*『華道奥伝／原一旋転之巻』活字本一冊・浮き字覆表紙・奥書「同(大正)四年八月一日発行／昭和九年十一月十五日再版発行／大阪市北区市之町七番地／発行兼印刷者 華道未生家元／肥原四郎」。「備考」肥原四郎は未生流家元八世。

昭和十年(一九三五)

\*群千鳥模様印刷茶覆表紙。奥書「昭和十年一月十五日／発行／訂正著作者 廿四世観世元正／発行兼印刷者 檜常之助／発行所 檜書店」①『芦刈』②『当麻』③『八島』

昭和十一年(一九三六)

\*『平部』・群千鳥模様薄茶色表紙。昭和十一年一月十五日／檜書店発行。

昭和十二年(一九三七)

\*『華術三才之巻／完』活字本一冊・浮き字覆表紙・奥書「明治三十三年四月十七日発行／昭和十二年四月十日再版発行／発行兼印刷者 未生斎康甫肥原四郎／発行所 華道未生流家元」。

昭和十三年(一九三八)

\*『恋重荷』・白地縦横太細金縞模様覆表紙・奥書「昭和十三年三

月五日発行／訂正著作者 観世左近／発行兼印刷者 檜常之助／発行所 檜書店」。

\*刷『満州地図』・昭和十三年六月一〇日・縮尺參百萬分ノ一日本統制地図株式会社

\*『請求書(能舞台建設費)』・茶封筒表書「請求書／大西様／建築業 真田清三郎」・内容：①請求書・青線事務用箋「請求書 大西様」二枚ホツキス留・昭和十三年六月・舞台見積・②領収書・青線事務用箋「領収書 大西様」一枚・昭和十三年六月三〇日・建設業 真田清三郎敷舞台建設費・舞台料ほか・③収支控・役料や弁当代等・④「(弟子役料)」・黄線一二行書事務箋備考：①③は能舞台建設に際しての書類。④⑤は舞台披きの書類であろうか。

\*『今橋舞台披 芳名録』写本一冊。外題「昭和拾參年七月一、二、三／今橋 舞台披 芳名録 大西松楓社」。内容：甫(初日)四名、二日目三二名、三日目七〇名、記念御招待芳名録(初日)三十八名

昭和十四年(一九三九)

\*『鸚鵡小町』・茶地蜀江錦紋打抜き模様表紙・昭和十四年一月十五日／観世流改訂本刊行会発行。

\*『八嶋』・群千鳥模様薄茶色表紙。昭和十四年一月十五日

\*『木曾』・群千鳥模様薄茶色表紙。

\*『学生招待鑑賞能 朝日会館舞台』昭和十四年五月二十六日／

朝日会館舞台」活版一枚。

〔備考〕能楽同志会主催・朝日新聞社会事業団後援／①男子部・大西信久〈自然居士〉・大西信彦・仕舞〈松虫〉、②女子部・大西信久・仕舞〈鶴〉  
西信久

\*〔昭和十四年七月二十一日／菊花／大西信久先生歓迎謡曲仕舞大会〕活版一枚。〔備考〕観雄会・大西信久・番外〈隅田川〉・〈葵上〉・仕舞〈野守〉

\*〔朝日会館使用承諾書〕・墨付一枚。〔備考〕昭和十四年十一月十五日付・使用者・大西信久・使用目的・白衣勇士慰問学生鑑賞能

\*朝日会館入場券・刷〔第一九回学生鑑賞能楽招待入場券〕①女子部・②男子部・〔備考〕昭和十四年十一月十五日付・使用者・大西信久・使用目的・白衣勇士慰問学生鑑賞能番組〈砧〉

\*〔舞台凶割〕・写し薄緑笹模様背景一枚・〔備考〕ホールでの舞台凶か。昭和十四年十一月十五日の学生鑑賞能用か。〈佐渡狐〉

\*〔白衣の勇士慰問及学生鑑賞能楽会開催届〕写し・墨付二枚。〔備考〕内容は、昭和十四年十一月二十四日・朝日会館・講演・大阪女子専門学校校長平林治徳・代表者・大西信久・演者氏名列挙・天満警察署宛

\*〔昭和十四年十一月廿四日／白衣勇士慰問能楽会／朝日会館能舞台〕活版一枚。〔備考〕能楽同志会・大西信久〈大仏供養〉

\*〔昭和十四年十一月廿四日／朝日会館能舞台〕活版一枚・〔備考〕

能楽同志会・大西信久〈大仏供養〉

\*〔学生招待鑑賞能／昭和十四年十一月廿四日／朝日会館能舞台〕活版一枚・〔備考〕能楽同志会主催・大西信久〈砧〉  
昭和十五年（一九四〇）

\*〔車僧〕・群千鳥模様薄茶色表紙。昭和十五年一月十五日／繪書店発行。

\*〔株式割当表〕・ガリ版刷半紙一枚。〔備考〕大西松諷社代表者宛／昭和十五年二月一三／株式会社大阪能楽殿発起人。

\*〔昭和十五年十月十七日／祖考閑雪二十五回忌／先考新三郎七回忌／追善能組／於大阪能楽殿〕活版一枚・〔備考〕催主・大西信久・大西信彦〈張良〉・龍神・大西信久〈清経〉・大西信和〈望月〉子方

\*〔走井〕活字本一冊・黄土地表紙・奥書「昭和十五年十月再刊／著者 橋本関一／印刷所 松崎印刷所（非売品）」。前書「この稿を亡妻の霊前に薦む」・〔備考〕走井の旧跡を購入したいきさつ。小町百歳の像、謡曲〈蟬丸〉等も引用し、「逢坂と文学」の項目あり

昭和十六年（一九四一）

\*〔体用柶応之卷〕活字本一冊・浮き字覆表紙・奥書「明治三十三年四月十七日発行／（中略）／昭和十六年三月三日四版発行／発行者 未生斎康甫／肥原四郎／発行所 華道未生流家元」。

\*〔昭和十六年九月十二日／亡弟信秀七回忌追善能組／於大阪能

楽殿」活版一枚・二部あり。「備考」催主…大西信久・大西信彦  
〈俊成忠度〉・大西信和・信明〈小袖曾我〉・大西信久〈定家〉・  
大西信辨〈舍利〉・韋駄天

\*『籠太鼓』・群千鳥模様薄茶色表紙。昭和十六年九月十五日／檜  
書店発行。

\*群千鳥模様薄茶地表紙・茶地矢車紋入長形題簽・観世流稽古用  
謡本・奥書「昭和十六年五月十五日／発行／訂正著作者 廿四  
世観世左近／発行所 檜書店」・考察…『鴻山文庫蔵能楽資料解  
題 上』二五三四にほぼ同じ。①『神歌』②『天原御幸』③『笛  
之巻』④『岩船』⑤『野守』⑥『老松』⑦『源氏供養』⑧『昭  
君』⑨『竹生島』⑩『采女』⑪『桜川』⑫『須磨源氏』⑬『知  
章』・黄地

\*『忠霊』師範用・群千鳥浮模様印刷浅葱色表紙。奥書…「昭和十  
六年十一月一日発行／著作権所有者 観世元正（朱角印）／発  
行者印刷者 檜常之助／発行所 檜書店／配給元 日本出版配  
給株式会社」・朱角印「観世宗家忠霊」と朱丸印「大西」。考察…  
『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』三二A二三の師範用。浅見真健  
が観世会委員会の中心で、作詞はほとんど同人案のまま。「観  
世」昭和十六年十一月・十二月に関連記事。

\*『忠霊』・「備考」前項参照。

昭和十七年（一九四二）

\*書状「差出人…岡治龍蔵・大西信久先生宛・昭和一七年七月一

七日」・表書き「大坂市東区今橋一丁目七番地／大西信久先生  
殿」・長尺。「備考」生前の大西閑雪から「邯鄲旅客榮華枕」の  
書を賜り、それにかかわって観世宗家と片山家の書の比較。

\*『義経』・群千鳥模様印刷茶色表紙。「備考」後項参照。観世鏡之  
丞作曲。四月十日観世会舞台で鏡之丞試演。

\*『義経』・群千鳥浮模様印刷浅葱色表紙。奥書…「昭和十七年八月  
十五日発行／著作権所有者 観世元正（朱角印）／発行者印刷  
者 檜常之助／発行所 檜書店／配給元 日本出版配給株式会  
社」・朱角印「観世宗家」。「備考」「社中へ広く普及相成度候」  
の便箋一枚あり。『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』三二A三〇の  
師範用。前付に高浜虚子作。観世鏡之丞作曲。番囃子で放送さ  
れた由。ジンギスカン義経伝説に基づく。

昭和十八年（一九四三）

\*『皇軍艦』同一本二冊・群千鳥模様印刷緑色表紙。奥書「昭和十  
八年五月十五日発行、五〇〇〇部／著作権所有者 廿五観世  
元正（朱角印）／発行者印刷者 檜常之助／発行所 檜書店／  
配給元 日本出版配給株式会社／定価六十銭」。前遊紙…朱丸印  
「師範用」、朱角印「観世宗家」、朱角印「大西蔵書」。考察…『鴻  
山文庫蔵能楽資料解題 上』三二A三三イに同じ。潜水艦乗組  
佐古少尉原作。五月二十五日に華族会館舞台上演された。

\*小林静雄作詞①『緋桜』・緋桜絵薄茶表紙。奥書「昭和十八年八  
月十五日発行、二〇〇〇部／著作者 小林静雄／著作権所有者

竈門神社桜楓会 吉田廣盛／発行兼印刷者 檜常之助／発行所  
 檜書店／観世流大成版 朱角印「竈門神社桜楓会」。考察・別に  
 謹呈付箋「竈門神社桜楓会 吉田廣盛」と昭和十八年十月日の  
 便箋あり。小林静雄（明治四十二年～昭和二十年）は能楽研究  
 者。『能楽史研究』など高著を著すも太平洋戦争出征中、フィリ  
 ピンのミンドロ島で戦死。②『竈門山』・散紅葉流水薄茶表紙。  
 奥書・昭和十五年十一月十五日発行／著作者 小林静雄／著作  
 権所有者 竈門神社桜楓会 吉田廣盛／発行兼印刷者 檜常之  
 助／発行所 檜書店／観世流大成版 朱角印「竈門神社桜楓  
 会」。

\*『松聲会抄録』写本袋綴一冊・奉書紙金地松雲厚覆表紙・「備考」  
 『松聲會抄録』と一括。昭和十七年六月十四日・茶臼山榎佐での  
 素謡会発会番組、昭和十七年八月十六日・京都岡崎つる家での  
 第二回素謡番組、昭和十八年三月十三日・大阪船大工町一茶で  
 の第三回素謡会番組、昭和十八年八月二十九日・嵐山花乃家で  
 の第四回素謡会番組にそれぞれ出席者名簿が付される。

\*「収支決算」写し五枚・「備考」支出之部・七月一七日～八月  
 三日まで旅費等を黒ペン書きで三枚に記す。大連市ヤマシロホ  
 テルのメモ裏側に記したものを。大連での演能時らし。

昭和二十一年（一九四六）

\*「梅若會々則（本則）」一枚。「備考」昭和二十一年一月 梅若會  
 関西本部」発行の会則。

\*「昭和廿一年度月次能楽會豫定番組」ガリ版刷一枚。「備考」京  
 都観世会主催。四月二十八日（二人静）大西信久・大西信彦。  
 \*「昭和二十一年大概能楽堂舞台能組予定表」パラフィン紙一  
 枚。「備考」大阪観世会主催。五月五日（邯鄲）大西信彦・智久  
 （子方）・九月一日（富士太鼓）大西信彦・大西智久（ヒメ）  
 昭和二十三年（一九四八）

\*『観世流小書総輯』・活版洋装一冊①外題・覆表紙刷「昭和二十  
 三歳二月／観世流／小書総輯」。「備考」冒頭「達」は、昭和二十  
 一年、職分各位宛に二十五世観世元正、後見観世鍔之丞の連  
 名で小書の名称統一ならびに等級別を五〇音順で定めたもの。  
 裏表紙に朱角印「大西信久」。②奥書・ペン書き「昭和二十三年  
 二月十日 大西信久（花押）」。「備考」冒頭「達」は、昭和二十  
 一年、職分各位宛に二十五世観世元正、後見観世鍔之丞の連名  
 で小書の名称統一ならびに等級別を定めたもの。

\*『観世流職分会議事録』謄写本・「備考」表紙に「大西様」とペ  
 ン書。昭和二十三年八月二十二日静岡県古奈温泉での宗家出席  
 のもと会議記録。大西信久出席。

\*「昭和二十三年十一月二十三日・十一世生一左兵衛（綾雪）師追  
 善能楽会番組／催主 山中信義・山中信之」活版一枚・「備考」  
 山中能楽会・於大概能楽堂・大西信久・大西信彦（俊成忠度）・  
 大西信和・信明（小袖曾我）・大西信久・舞囃子（砧）・大西信  
 彦（恋重荷）

昭和二十六年（一九五二）

\*『巻絹／放下僧／野宮／弱法師／玄象』・灰地白波模様表紙・奥書「観世流謡曲教本 第九巻／著作 観世流改訂本刊行会編纂／部代表 丸岡明／挿絵松野奏風／刊行 能楽書林 丸岡大ニ／昭和二十六年三月二十日発行・考察『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』二五二六に同じ。『観世流謡曲教本』九に該当。二十五年三月から二十六年十一月にかけての発行。発行所の能楽書林は戦前、丸岡出版と称した。

昭和二十七年（一九五二）

\*『松風』・薄茶地群千鳥模様表紙・奥書「昭和二十七年十一月十日発行／観世流準九番習謡本奥書／（朱角印「観世宗家」）／訂正著作者 廿四世 観世左近／発行兼印刷者 檜常太郎／発行所 檜書店」。

昭和二十八年（一九五三）

①『加賀と宝生』（金沢能楽会）②『潮聲』\*二十五・二部（昭和二十八年二月五日・松諷社潮聲会発行）  
\*『接待』薄茶地群千鳥模様表紙。昭和二十八年五月十日／檜書店発行。

昭和三十三年（一九五八）

\*『観世流稽古用謡本』群千鳥模様薄茶地表紙・茶地矢車紋入長形題簽・内容・葵上・海士・蟻通・生田敦盛・雨月（二種）・歌占・江口・小塩・春日龍神・合浦・兼平・咸陽宮・熊坂・呉服・

西行桜・実盛・俊成忠度・住吉詣・誓願寺・善界・殺生石・蟬丸・大会・忠信（二種）・龍田・土車・融・朝長・鳥追舟・鶴・白楽天・芭蕉・飛雲・船橋・夜討曾我・弓八幡・吉野静・養老・頼政・羅生門・奥書「昭和三十三年五月十日発行／訂正著作者 廿四世 観世左近／発行所 檜書店」・「備考」『鴻山文庫蔵能楽資料解題 上』二五三四にほぼ同じ。

昭和三十三年（一九五八）

\*標題・「昭和三十三年山本能楽堂 観阿弥祭素謡会番組」・「備考」大阪観世会主催。

以下、年代不明

一番綴謡本

\*『翁十二月の往来』・一冊のみ表紙に朱角印「大西松諷社本部」奥書「松諷社蔵／非売品」。

\*「〔安達原〕黒頭急進ノ出」写し一枚・標題「黒頭急進ノ出」。

\*「〔敦盛〕ほか」部分謡・原稿箋一枚。内容・〔敦盛・木賊・葵上・輪蔵〕。その下に数曲の曲名を記す。

\*『綾鼓』・群千鳥模様打抜き白茶色覆表紙。奥書「謡本所 皇都二條通寺町西入 檜常之介（朱丸印）」。

\*『池田さいはら』袋綴一冊

\*『板敷山』①薄茶地表紙②奥書なし。但、「室町通」以下墨塗。

\*「砧」部分墨付一枚・上げ歌「足曳の」。

\*『禪師曾我』・黄土表紙。二月十一日檜常之介発行

\*『卒都婆小町』・茶覆表紙・外題…直書「卒都婆小町／岩井」・奥書…なし。

\*『豊崎宮』①内題…「豊崎宮」。外題…「豊崎宮」(打付書)。綴なし。本文墨付六丁。前書…内題下に「入江来布作詞／大西信久作曲」と記す。「備考」『能楽大事典』新作能一覽にも取り上げられず。②標題「豊碓宮／入江来布作詞／大西信久作曲」。寸法…緑線原稿用紙(二二文字×二〇行)。桃色紙縫二穴綴。丁数…本文朱入墨付七枚。③無綴写。内題…「豊崎宮」。墨付三枚。④無綴写。内題「豊崎宮」。本文朱入墨付三枚。

\*「(鉢木)」無綴写四枚。

\*「船弁慶」部分謡・半紙一枚

\*「望月獅子」写し各一枚・①「望月獅子」②「望月」

二番綴謡本

\*『東の都／東京の花』・仮綴白覆表紙写本・奥書「高木半著述／観世清孝聲譜」と墨書。「観世大夫弟子／片山豊年 墨書印」。分類は曲舞か。

\*表紙のみ二番綴写本「雪女・空也」

三番綴謡本

\*『通小町／橋弁慶／難波』

付

\*「千歳舞形」写し一枚・青十行原稿箋。

\*「二角仙人」付・便箋墨付四枚。「備考」内容(昭君・砧・石橋)

\*「雨月・定家・砧」一調写し各一枚。

\*「鶯乱舞」付・写し一枚

\*「(狸々)型付(乱)笛譜」付・写本一冊。「備考」内容…(狸々)装束付并型付・(乱)

\*「(高砂)ほか五番立」ペン書き二枚。

\*「(高砂)ほか分類」…ペン書き一枚。「備考」後に「明和改正の分」と記すように「到知・格物・誠意・治国・修身・齊家・正心・平天下」に分類。

\*「(高砂)ほか分類」朱入墨付四枚。「備考」四枚。「明和改正の分」に合わせたもの①「到知・格物」・②「誠意・平天下正心」・

③「正心・治国」・④「齊家」・⑤「齊家・治国・格物」。

\*「(曲名名寄天地分類)」写し一枚。「備考」(放下僧)以下(雷電)までを「天」、(絵馬)以下(檀風)までを「地」と分類し墨書。

\*「道成寺」付・一枚・「備考」「道成寺素謡之心得・乱拍子」。

\*「道成寺笏拍子」付・写し一枚・

\*「夜討曾我十番切」付・墨付一枚。

笛

\*「(八割笛譜)」写し二枚。「備考」『観世』原稿用紙。

\*「(笛譜)」写し一枚

\*「(笛舞台移動図)」写し二枚・曲名不詳。

\*「初段ヲロシ」写し一枚



太鼓

\*『太鼓二十五手打方』写本一冊・黄土地菱丸模様覆表紙・挟紙  
「洋々会会員名簿」一枚。

\*「(太鼓付)」写し一枚。

狂言

\*『間狂言』車僧／遊行柳／道明寺／葛城／春日龍神／雷電／鶴／  
項羽／舟橋／殺生石／羅生門／大会／女郎花』十三番綴写本一  
冊・水色覆表紙。「備考」一部鼠損。(大会)の木葉天狗のみフ  
シ記号あり。ほかは台詞。流儀未詳。

\*「(狂言曲名)」墨書一枚。「備考」(政頼) (戎毘沙門) 二十六  
曲の狂言曲名を記す。

能面

\*『面之書』写本・備考・奥書なし。『新蔵生田文庫蔵書目録并解  
題』「史料の部」一一〇『面之書』の写しと思われる。

装束

\*『装束番号控』写本仮綴一冊・外題・仮表紙打付書「装束番号控  
大西松諷社蔵」。「備考」「唐織・大口 摺箔・水衣 厚板・半  
切・縫伯 長絹 側次 角帽子・狩衣・素袍」に分類。

能組

\*『春秋会報・春秋会定期能・第六期初回目・拾貳月拾貳日／大阪  
能楽殿』活版一枚・「備考」春秋会・大西信久(頼政)  
\*『五月五日能組并役割』二枚。①「五月五日 役割」玄関・進

行・楽屋・事務・後の接待 ②能組「竹谷恒一(咸陽宮)・手塚  
雄三(杜若)・山階信弘(道成寺)・上野義三郎(景清)・佐野光  
太郎(正尊)ほかに仕舞・連吟・狂言  
会則并名簿

\*『松聲会 会員名簿』活字本一冊・薄茶覆表紙・「備考」『松聲會  
抄録』と一括。

\*『松諷会会則』活版一枚・奥書「十月」。

\*『(大西松諷社) 会則』毛筆書・白地覆表紙袋綴。

書状

\*「(觀世清廉差出・大西鑑一郎宛書状)」墨付一枚・「備考」一月  
三一日付。觀世清廉から大西鑑一郎宛、井上氏の(鷲)演能に  
かわり、免状の件に及ぶ。署名に朱印。

\*「(平瀬カ差出・大西鑑一郎宛書状)」墨付一枚・備考・茶線便箋  
連続貼付。十一月十七日付。平瀬から鑑一郎様。梅若評か。高  
木半の名も記す。

\*「差出人・宛名不明」灰地墨付二枚。「備考」破れあり。能組記  
す。鹿田清七の名記す。

\*「(八月五日付封書・差出高安六郎・大西信久宛)」。八・十八・  
二十日付。(住所略) 高安六郎住所印。大西信久宛。「備考」大  
阪市市民局文化課依頼の十一月三日に行なわれる第三回明治節  
に催される能楽についての打ち合わせ。

\*「差出人・山西宗五郎・大西先生宛・日付不明」・表書き「大西

先生／手箱添／山西宗五郎」・「備考」一休禪師や在原朝臣の辞世歌を引用しつつ自らの狂歌をつらねる。

\*「永田差出・大西様宛」一枚。十行青野便箋・内容：大西様宛・一月十七日付・永田差出、「鷺乱」太鼓手付について。備考：元『小謡集』西舜等に紛れていたもの。

## 葉書

\*「一月二十一日付 観世清廉差出・林喜右衛門宛」。「備考」井上氏（鷺）の件。

\*「八月二三日付 谷五兵衛差出・大西信久宛」。「備考」叙勲の件。

## 史料

\*「観世家歴代略歴」墨付写し一枚。「備考」観阿弥「伊賀国杉内住人服部治部左衛門尉」から始まる。

\*「謡曲起源」仮綴一冊・内容：謡曲起源・観世歴代の事・歴代略系伝・明謡秘曲中巻解

\*「伝書抜書 神楽の事等」・内容：（太鼓打ち様）・神楽の事・早鼓の事・物着の事・八拍子六拍子の事・金春流能の名寄・面の数の事金春流メて三十六面・金春流舞台の図・七大夫流面付の事・作の面名・大倉流狂言名寄（鷺流京流）

\*標題：なし。墨書一枚・奥書「臘月初八書御手洗洲ニテ書 虚雪」・「備考」虚斎は大西家四代寸松虚雪。臘月初八すなわち旧暦一二月八日に記したものが年は不明。岡山県牛窓・広島県

福山市鞆港・呉市御手洗港をへ巡っての遊覧を漢文体日記。

\*『謳曲段々壞』・茶地覆表紙・①上・序文「さるがくの起こり（中略）鶴亀之年／望月／雲林院竹雪正尊誌／黒丸印・黒角印・内容：改篇之辨・以下、改正曲（高砂・安宅・邯鄲・楊貴妃・半部・三笑・大江山・龍虎・老松・白楽天・三輪・実盛・頼政・

羽衣・鵜飼・蟬丸・熊野）・見返し添付貼紙「謳曲段々壞／亡兄戯作／序ハ亡父 同」・別紙「ひがんに云々」②中・内容：改句之辨下・以下、改正曲（蟻通・鶴・安宅・大江山・羅城門・

樞天狗・當麻・通小町・張良・自然居士・富士太鼓・春日龍神・白水郎・狸々・芭蕉・鶴・舟橋・求塚・舟弁慶・項羽・西王母・

感陽宮・古訛之辨・鵜飼・天鼓・楊貴妃・老松・白楽天・項羽・ぬえ・白楽天・張良・井筒・三ツ山・音義の辨）③下・内題：「改正段々壞卷之下／烏有屋士 朱翁／附録」・内容：以下、改

正曲（白水郎・羽衣・石橋）・自序。

\*「謡心掛け」・仮綴・備考：内容は同音の心掛け・小謡（養老・殺生石・板敷山・柏崎・木曾・祝言）

\*「（道成寺）」写し二枚。

\*「家系図」墨付写し一枚。「備考」大西家の家系図。教味から智久まで。信久筆か。

\*「護符」写し一枚。「備考」「天地金神」を中心に「太將軍・生神」「八百万神・不殘金神」を左右に配列記述。

\*「干支法要表」墨付一枚。「備考」「寅 智仙 廿七回」等。干

支に合わせての法要覚。

\*『能楽大観』①活字一枚・備考…『能楽大観』の一枚を抜いたもの。②写真一葉。「備考」「乱」双之舞 神田慶太郎氏 大西新三郎氏（二日目）。

\*『曲名地天分け』ペン書一枚。「備考」謡曲曲名を地・天・形付ナシに分類したもの。

\*『Note Book』洋装一冊。標題は外題による。表紙二人の手書き人物（子供・曾我物？絵。先頭は刀差し・右手に扇）。頁数…墨付二三頁・白紙二二頁。内容は二〜六頁までが「大西家門人帳」。四頁表に「生田耕一」の名が見える。ほかは覚書。

#### 発声

\*『和語聲音釈』一冊・内容…五十音の発声での舌・歯・唇の用い方。

#### 地名辞書

\*『国郡正訓』写本一冊・白地仮覆表紙・「備考」五中八道八四国七二一郡の読み方。

#### 和歌

\*『古今和歌集』写本一冊。袋綴朱入墨付。「備考」序文から巻九まで。

\*『歌集』 仮袋綴一冊。内題「早春詠鶴」で始まる。

\*『歌集』 茶厚紙覆表紙写本一冊・内題「ゆふがほのあきねにかよふなめくじらひかる源氏の跡をとめて」・「備考」四季・雑

に分類し、さらに書き込めるようにしてある。

\*『堀河院艶書合』写本一冊。薄茶覆表紙。

\*『歌門枢要』 仮綴写本一冊。

\*『大西寸松和歌集』一枚。和歌四首。

\*『（千手）に寄せて』一枚。「備考」〈千手〉にかかわつての和歌一首。

#### 絵入り句歌

\*『絵入り句歌』写し三枚・①「うちつけにうてと／うつえのうつ、／なく／おもふ斗の／たちからもなし」②菅城の漢詩・土筆絵入り③「所せくいほはミゆれと／大かたの／春の飛にや／こゝにし／むらん」

\*『絵入り句歌』写し絹様色絵入り墨付一枚。内容「横さまにゆらきはすれと／人の如あしき／わらわに／ミえぬ蟹かな／歎達／蟹絵」／七十二叟□□□居士」。

\*『秦曲正名閩言目録』版本一冊・薄茶地覆表紙・奥書「秦曲正名閩言卷之下／津屋忠兵衛（朱角印）」。「備考」中下巻合冊。『早稲田大学演劇博物館所蔵 特別資料目録五 貴重書 能・狂言 篇』雑六と同。

#### 漢籍

\*①『六子書』写本一冊・備考…「文中子」卷一〜九。②『六子書荀子』写本・内題「六子書第五／所載荀子從一／至二」・「備考」「文中子」卷一〜九。

\*『論語』 版本一冊・黒地草花浮出模様表紙・〔備考〕 卷一〜二。趣味

\*『シールブック』 版本袋綴一冊・外題：〔Note Book〕・〔備考〕 様々な種類のシールを貼り付け。一頁めに「表情挿絵（四種）」。

\*『能人形等切抜』 切抜西洋紙袋綴一冊・〔備考〕 雑誌からの切抜・木目込人形（翁）（花筐）を含む。

\*『羽子板・凧・雛人形・京劇面等切抜』 切抜一冊・茶地厚表紙・〔備考〕 雑誌からの切抜・吊り下げ飾り（高砂）を含む。

\*『花デッサン・静物・人物絵切抜』・西洋紙袋綴。〔備考〕 雑誌からの切抜・吊り下げ飾り（高砂）を含む。遊紙は能組の再利用。

\*切抜『魚貝類・蝶・花・新聞切抜』・西洋紙袋綴・〔備考〕 雑誌・新聞からの切抜・新聞は熱帯魚の飼育・遊紙は能組裏の再利用。

\*『エジプトミイラ・陶器・風景画切抜』 切抜西洋紙袋綴一冊・

〔備考〕 雑誌・新聞からの切抜・遊紙は能組裏の再利用。

## 平曲

五番綴平曲写本・袋綴黄地覆表紙・〔備考〕 外題漢数字は朱。口説・初重・中音等平曲に特有の節付。①『殿上闇討／鱸／我身 栄花／二代后／一 額打論』②『山門滅亡／善光寺炎上／康頼 祝／卒都婆流／蕪武』③『月見／大庭早馬／朝敵揃／感陽宮／ 文覚強行』④『文覚勸進帳／奈良炎上／新院崩御／紅葉／葵

前』。⑤『玄舫／連署願書／主上都落／惟盛都落／聖主臨幸』⑥『火燧合戦／木曾願書／俱利伽羅落／篠原合戦／実盛最後』⑦『宇佐行幸／緒環／太宰府落／小朝拝／生食』⑧『梶原二度懸／坂落／敦盛／浜軍／小宰相』⑨『宇治川／木曾最後／樋口被斬／三草合戦／一二之懸』⑩『横笛／高野卷／惟盛出家／熊野参詣／惟盛入水』⑪『藤戸／大嘗会沙汰／次信最後／奈須／鶏合』⑫『先帝入水／内侍所都入／副将／腰越／平大納言流』⑬『女院御出家／小原入御／小原御幸／六道／女院御往生』

【付記】 本稿は、科学研究費補助金基盤研究（C）「大阪能楽会館蔵書解題目録の作成ならびに茂山千五郎家と青家のかかわり」（課題番号一八九九九五五研究代表者 関屋俊彦）に基づく研究成果の一部である。

## A summary and English translation of “Noh actor Onishi family’s modern collection catalog with chronological explanations”

SEKIYA Toshihiko

This is an annotated catalog by period since the beginning of modern times, mainly related to Noh and owned by the Noh actor Onishi family. I wrote, “A catalog of the pre-Early Modern Manuscripts Owned by Noh players of the Onishi family.” This time it is from the Meiji period on wards. Those from the modern era contained much information, including memos, and it was time-consuming to research them. As I continued my research, I began to understand the importance of the era in which the fifth generation of the Onishi family Kansetsu (1840–1916) was active. This can be compared to the success of Editor IZUMI Motoyasu of “Kokufu,” the only Noh magazine published in Osaka. This period coincides with the era known as the Great Osaka, the details of which will be reexamined. Finally, I believe that it is my responsibility to the Onishi family to complete a printed book, if possible.

キーワード：能楽師大西家 (Noh actor Onishi family)、1869年～1958年 (1869–1958)、  
大西閑雪日記 (Onishi Kansetsu diary)、  
松諷社～大西松諷会 (Shofu company-Onishi Shoufu Association)、  
メモ・趣味を含む (Includes of notes and Hobbies)

